

学習内容報告書 フォーマット

学校名	福島県南会津郡只見町立明和小学校
授業者	第3・4学年（複式学級）担任

1. 単元計画

1-1. 単元名

只見のよさ（田子倉湖遠足からの学び）

1-2. 学年

第3・4学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

学校行事（遠足・集団宿泊的行事）・総合的な学習の時間等

1-4. 単元の概要

9月3日（金）には全校生で遠足が位置付けられている。3・4年生複式学級では、総合的な学習の時間に「只見のよさ」をテーマに自然体験から水の循環に焦点を当てて学ぶことを通して、人々の暮らしについて学んでいく計画をしていた。そこで、ブナの天然林に囲まれた田子倉湖を遠足の目的地としてダム役割や豊富な水の源、モーターボート周遊での自然観察を学ぶ価値のある地域素材として意図的に設定した。子どもたちは、田子倉ダムに関する学習では、ダムの役割や田子倉集落が水没してできた人造湖であること、湖に沈んだ集落の人々の思いなどにふれ、もっと深く調べてみたいと関心を高めた。そして、モーターボートでの田子倉湖周遊では、只見川上流から奥深くまで広がる湖、多雪地特有の景観、水しぶきを上げる度に感じる冷たい水の感触等、五感を使って多くのことを感じ、考えることになった。途中、滝の地点でモーターボートから降りた時には、その豊富な水量の多さからダムに選ばれた理由を実感を伴って理解することができた。反面、そのために湖底に沈んだ地域の人々の思いを想像し、「豊かさ」について考えるきっかけにもなった。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 田子倉ダムの仕組みや役割について知り、生活と水の関係やそこで働く人々の思いについて考える。
- 田子倉湖をモーターボートで周遊することを通して只見の自然の豊かさに気付かせ、自然を満喫させる。
- 田子倉ダムができた歴史を調べる学習を通して、当時の人々の様々な思いに触れ、自然を守ることと生活を豊かにしていくことについて考えさせる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 人造湖である田子倉湖の役割や自分たちの生活とのつながりについて理解し、自分たちの生活を見直す力（知識及び技能）
- 田子倉ダムの仕組みや役割について学ぶことによって、自分たちの生活の在り方やどのように電力を使っていくことが持続可能な社会を形成していくことになるか考える力（思考力・判断力・表現力等）
- 只見の手つかずの自然を五感を使って感じる体験の中で、自然の豊かさを味わいながら活動を楽しむ態度（学びに向かう力・人間性等）

1-7. 単元の展開（行事1日（5時間として考える）、総合的な学習の時間全10時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
行事 一 日	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電源開発只見展示館にて、田子倉ダムの仕組みや役割について調べる。 ○ 田子倉湖周遊を通して、只見の豊かな自然を満喫する。 ○ ふるさと田子倉館で田子倉ダムの歴史について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示館の資料の見方や解説をしながら、子どもたちが理解できるよう助言していく。必要に応じて展示館の職員にも質問するよう声をかける。 ○ ガイドも務める運転手さんに奥只見に生息する動植物等について説明していただいたり、モーターボートの安全な乗り方、マナーを指導していただいたりする。 ○ 時代背景や難しい言葉等について必要に応じて説明し、理解できるようにする。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遠足で感じたことや考えたことをふり返り、さらに調べてみたいことを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遠足時の写真やワークシートにメモしたことを共有しながら、感じたことや考えたことを交流し合い、関心の高い事柄や学ぶ価値の高い事柄について吟味し、子どもたちが納得いく学習課題を設定する。
2 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奥只見と言われる田子倉湖の自然について、田子倉ダム建設の歴史について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめとして学習発表会で学んだことを発表することを知らせ、目的意識をもって調べることができるようにする。 ○ 只見町で発行している図書やタブレットの活用等、目的に合った方法で調べ学習を進めさせていく。 ○ 調べた内容や分かったこと、感じたことや考えたことをワークシートにまとめ、ファイルにストックしておく。
4 ～ 8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだこと・考えたことについて劇にして発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が子どもたちが学んだこと、感じたことを基に焦点を絞って台本を作成するが、子どもたちが納得するよう自分たちで書き換える。 ○ 相手意識をもって学んだことがわかりやすく伝わるかどうか評価しながら練習させる。
9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習発表会で自分たちが学んだこと、感じたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 只見の自然や田子倉ダムの歴史について学んだことや感じたことについて相手に伝わるように発表できるよう、学びを自覚させ、自信につなげる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遠足から、学習発表会までの学びを振り返り、自分たちが学んだことや感じたことを発信することで得た満足感について自覚させる。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- 田子倉ダム of 仕組みや役割について知り、生活と水の関係やそこで働く人々の思いについて考える。
- 田子倉湖をモーターボートで周遊することを通して只見の自然の豊かさに気付かせ、自然を満喫させる。
- 田子倉ダムができた歴史を調べる学習を通して、当時の人々の様々な思いに触れ、自然を守ることと生活を豊かにしていくことについて考えさせる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 田子倉湖へ遠足に行く目的を確認する。</p> <p>2 それぞれの学ぶ場所で、ガイドの方の説明を受けたり、自分で資料を調べたりしながら学ぶ。</p> <p>3 活動を振り返り、次時への学習につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間の学びの継続として、自然環境の観点、水力と電力の観点、田子倉の歴史的観点、安全面の観点について確認し、自ら自分の関心に従って主体的に学ぶ意識をもって出かけるようにした。 ○ 自分自身のめあてを確認し、目的意識をもって活動できるようにした。 ○ 資料館や展示館の職員の方から適宜説明していただいたことで、自分では理解できないことも、分かりやすく理解することができた。専門的知識が必要な内容であるため、教師も学びながらの学習となった。（事前打合せで説明をお願いしておいた。） ○ 五感での感じることを大切にすることで実感を伴った学びにしたいと考え、要所、要所で、感じたことを言葉にする声かけを行った。それによって、自分が感じたことを自覚することにつながった。 ○ 学んだことや感じたこと、考えたことはワークシートに記録しておくよう指導しておいたため、その都度声をかけ、新鮮な言葉を記録できるようにした。振り返り時に役立った。 ○ 活動の中で子どもたちの気付きやよさを広めたり自覚させたりしたことで、只見の自然や人々の思いを再確認できた。

3. 今回の活動の自己評価

- 田子倉湖をモーターボートで周遊し、豊かな自然を見たり、自然の滝にふれ、水の冷たさや豊富さに感動したりする活動を通して、自然首都只見と言われる理由について実感を伴って理解することができた。
- 豊富な水と豊かに守られているブナを代表とする森（自然）が、多くの人々の生活を潤す電力を作っていることを理解し、改めて只見の自然の豊かさを誇りに思う活動となった。
- 発達段階上からも自然にばかり目が行きがちだった子どもであったが、田子倉ダム建設に関わる歴史について学ぶことによって、人々の思いを想像することができた。今ある生活は昔の人々の様々な葛藤の上に成り立っていることを知り、簡単に豊かな自然を守ることはできないことにも気付くことができたよい活動となった。

4. 今後の課題

- 遠足は、教師の思いや願いを優先させて設定した。学ぶ価値のある場所ということで教師が選ぶこと自体悪くはないが、子どもたちの学びの傾向やどんなことに興味関心が高く主体的に学ぶであろう内容についてリサーチしておく必要がある。学校行事である遠足についても、教師の学ばせたい内容と重ね合わせて体験を設定したり、単元を構想したりすれば、より効果的な学びが実現すると考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 海洋との関係が薄い内容と感じられるが、山間部における海洋教育は、まず、地域理解学習によって地域への愛着や誇りを育むことが土台となると考える。低・中学年で、地域への愛情を育てておくことが海洋とつなげたグローバルな学びを可能にすると考えられる。この学習が、下流の海へつながる学習へとつながっていく。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。